

5月の熱中症について

総務省の報告によりますと、昨年平成28年5月の全国における熱中症による緊急搬送人員数は2,778人でした。5月の平均気温が、記録的に高かった平成27年に比べ116人少なくなっています。しかしながら近年、5月は熱中症による搬送が急増する傾向が続いています。

気象庁も、この先1カ月は全国的に気温が平年より高いと予報しており、先日も、四月ながら関東では真夏日を記録しました。今後もさらに高気温になることが見込まれており盛夏期同様の注意・対策が必要です。

真夏の暑さに比べ、さほど厳しくないにも関わらず、この5月に熱中症が発症しやすい理由は以下の通りです。

- 急激な気温の上昇に体が順応できない。
冬季を経て、人によっては体が発汗に慣れていない。
- 真夏に比べれば暑くないので水分補給が少ない。
のどの渇きと、体内の渇きが一致しない。
- 環境の急激な変化。
未経験の環境下。 ※新入社員
- 熱中症対策の未実施。
自分自身だけでなく、周辺環境も未対策。

このように5月でも真夏同様の対策が必要です。

職長・責任者の注意事項 (新入社員には特に留意)

- 予想最高気温/WBGT値のチェック
当日の天気予報チェック 25℃以上要注意
- 作業員の体調チェック
寝不足、二日酔い、空腹など 本人へ聞き取り 目視のみは無効
- 休憩時間、場所の確保
作業スケジュールリング、冷房場所の確保 車両エアコン利用
- 飲料水確保
現場近くに売店等なければ事前準備 こまめな水分補給

新入社員の皆様へ

- 屋外作業に慣れていない方は、厳重な体調管理をお願いします。
- もし体調に異変を感じたら…
 - ◆ **すぐに近くの人へ申告してください。**
 - ◆ **絶対に我慢しないでください。**

以上